

2019年度実務経験のある教員等による授業科目の一覧

実務経験	氏名	領域	授業科目	単位数
幼稚園教諭	守 巧	総合専門領域	運動障害教育法	2
	守 巧	総合専門領域	子育て支援フィールドワーク(応用)	2
	守 巧	総合専門領域	子育て支援フィールドワーク(基礎)	2
	守 巧	総合専門領域	障害児の発達と運動遊び	2
	守 巧	総合専門領域	障害児保育演習(理念と援助)	1
	守 巧	総合専門領域	障害児保育演習(現状と課題)	1
	守 巧	総合専門領域	家庭支援論	2
保育士	富山 大士	総合専門領域	保育内容指導法演習(環境)	1
	富山 大士	総合専門領域	保育内容総論	2
幼稚園教諭	松浦 美奈	総合専門領域	指導計画と保育教材の研究	2
	松浦 美奈	総合専門領域	保育原理(意義と本質)	2
	松浦 美奈	総合専門領域	保育原理(保育ニーズの多様化)	2
	松浦 美奈	総合専門領域	在宅保育論	2
	須永 美紀	総合専門領域	教職・保育職概論	2
幼稚園教諭	須永 美紀	総合専門領域	乳児保育演習(意義と現状)	1
	須永 美紀	総合専門領域	乳児保育演習(発達と課題)	1
	合計			27

科目名	運動障害教育法		
科目英名	Education for Children with Physical Disabilities		
担当教員	守 巧	単位数	2
開講学期	春学期	開講学年	★3・4 年
卒業・免許・資格との関係	卒業選択/幼免選択	授業形態	講義

■授業概要

本科目では、運動障害のある乳幼児の特徴と発達をふまえた保育および教育実践をすすめる上での理解を深める。あわせて、運動障害児の保育および教育実践における家族への支援や就学指導などの基本的な考え方を知る。特に、障害の重度・重複化に伴う教育課程や指導体制のあり方、医療的ケアや就学指導など今日的課題に対する医療・福祉との連携のあり方などについて概説する。また、障害児保育の制度と現状、障害児通園施設などにおける専門的療育、保育所における統合保育などの形態を知り、特徴を把握するために、教育施設、福祉施設の見学を実施する。

■授業の到達目標

運動障害（肢体不自由等）のある子どもの発達、病理、生理、心理について学び、保育および教育における支援・指導方法の基礎を理解する。また、障害に対する概念の変化、障害の重度・重複化、多様化などによる地域支援、家族支援のあり方、医療的ケア、就学支援、特別支援教育、インクルーシブな保育などの今日的な課題について主体的に考えることができる。発達支援センターなどへの見学や参加を通して障害特性や支援の在り方に興味を持つ。

■授業の内容

- 第 1 回目 授業ガイダンス：運動障害と肢体不自由
- 第 2 回目 障害の概念：ICIDHとICFの理解
- 第 3 回目 運動障害児の発達とアセスメント
- 第 4 回目 運動障害児の病理・生理・心理
- 第 5 回目 運動障害児の就学支援
- 第 6 回目 自立活動を基礎とした運動障害児に対する支援
- 第 7 回目 運動障害児の健康の保持
- 第 8 回目 運動障害児の心理的な安定・人間関係の形成・環境の認知
- 第 9 回目 運動障害児の身体の動き
- 第 10 回目 運動障害児のコミュニケーション
- 第 11 回目 運動障害児の福祉機器
- 第 12 回目 運動障害児の家族支援
- 第 13 回目 運動障害児の医療的ケア
- 第 14 回目 運動障害児の総合的な生活支援
- 第 15 回目 運動障害児の実践的理解

■事前・事後学習

事前指導：シラバスを参考に次回の授業に関する専門用語等を調べておく。

事後指導：授業内容について参考書等を一読し、確認しておく。

■評価方法

参加態度に関する評価 40%

グループワークに関する評価 40%

レポート課題に関する評価 20%

教科書 教科書は使用せず毎回レジュメを配布する。	参考書等 日本肢体不自由教育研究会監修『肢体不自由教育の基本とその展開』（慶應義塾大学出版社） 飯野順子編著『障害の重い子どもの授業づくり』（ジアース教育新社）
-----------------------------	--

履修学生に求めること

障害児保育演習で基礎的な知識を得ることができるが、本授業では運動障害（肢体不自由等）についてさらに詳しく学ぶことを目的としている。障害児保育に興味のある学生は受講して欲しい。なお、施設見学にかかる費用は自己負担となる。

科目名	子育て支援フィールドワーク（応用）		
科目英名	Fieldwork for Childrearing Support (Advanced)		
担当教員	守 巧	単位数	2
開講学期	秋学期	開講学年	★3・4 年
卒業・免許・資格との関係	卒業選択/保育士選択必修 総合専門領域で保育士 15 単 位選択必修	授業形態	講義

■授業概要

「子育て支援フィールドワーク（基礎）」の授業を踏まえ、地域における子育て支援の担い手として保育者に求められる知識と技術を学習する。保育者は、保育所や幼稚園の在籍児やその家庭の保育・援助だけではなく、地域の子どもや家庭を視野に入れた子育て支援の中心的な役割を担う専門職であることを期待されている。そこで本授業では、認定こども園、子育て支援センター、児童館など子育て支援の現場で学生自身がボランティアを中心とした活動を行い、そこで体験し学び得たことを各学生が発表・報告する場を持つことで、地域貢献への実感と現場で求められる子育て支援の技術の習得を目指す。

■授業の到達目標

本授業ははじめに「子育て支援フィールドワーク（基礎）」で得た知識を基盤に、多様な子育て支援に関する知識を習得する。次に見学・フィールドワークを行い、施設における多様な子育て支援について体験しながら理解を深める。最後に、見学・フィールドワークを分析・記述・発表する。こうした自ら体験し、他者に教えるといったアクティブラーニングを用いた学びで子育て支援に関する理解を深める。履習者が能動的に学ぶことで、以下の項目に掲げる知識・技術を習得する。

1. 子育て支援の現場で、子育て支援活動を行うことができる。
2. 子育て支援や保育者の専門性について体験を通して理解し、自らの疑問や課題を解消することができる。
3. 体験を分析・記述し、まとめ・発表・報告を行うことができる。
4. 地域における子育て支援のニーズを理解し、現場で求められている子育て支援の技術を身につける。

■授業の内容

- 第 1 回 本授業の概要とスケジュールを知る
- 第 2 回 多様な子育て支援を学ぶ
- 第 3 回 地域における多様な子育て支援と施設を学ぶ
- 第 4 回 フィールドワークの実際とその分析を学ぶ
- 第 5 回 見学する施設を事前に調べる
- 第 6 回 地域における子育て施設の見学 1：施設の概要理解・地域のニーズを知る
- 第 7 回 地域における子育て施設の見学 2：実践者から学ぶ・疑問と課題を解消する
- 第 8 回 施設見学での体験を分析し、まとめる
- 第 9 回 施設見学での体験を発表し、グループディスカッションを行う
- 第 10 回 フィールドワーク先を事前に調べる
- 第 11 回 フィールドワーク 1：子育て支援を観察・体験・対話する
- 第 12 回 フィールドワーク 2：子育て支援を実践する
- 第 13 回 フィールドワークを分析し、まとめる
- 第 14 回 フィールドワークをプレゼンテーションし、グループディスカッションを行う
- 第 15 回 多面的な視点からの子育て支援を整理する

■事前・事後学習

事前学習：参考文献を用いて、地域と子ども（～9回）、フィールドワークの方法（10回～）についてまとめる。
事後学習：①授業内容、見学記録、フィールドワーク記録を整理してまとめる。②疑問や自己課題を整理する。

■評価方法

①見学のまとめと発表…30% ②フィールドワークのまとめと発表…30% ③15回目の授業内で課すミニレポート…40% 以上を総合的に評価する。

教科書 教科書は使用せず毎回レジュメを配布する 『保育所保育指針解説書』	参考書等 麻生武『「見る」と「書く」との出会い』新曜社 小堀哲郎 [編著] 『地域に生きる子ども』創成社
--	--

履修学生に求めること

①「子育て支援フィールドワーク（基礎）」を受講していることが望ましい。②本授業は履修学生の能動的な学習が必要である。③本授業は施設に行くことを目的とした授業ではない。事前学習、対話、記録、他者とのディスカッションに重点が置かれている。④見学・フィールドワークは「厚意により実現される」ことを十分に理解するとともに、主体的な学習態度、必ず出席、5分前行動の意志をもつ者のみの受講を望む。⑤集中授業のかたちで行う事がある。出席日数に十分注意すること。⑥交通費、実費は自己負担である。

科目名	子育て支援フィールドワーク（基礎）		
科目英名	Fieldwork for Childrearing Support (Basic)		
担当教員	守 巧	単位数	2
開講学期	春学期	開講学年	★3・4 年
卒業・免許・資格との関係	卒業選択/保育士選択必修 総合専門領域で保育士15単位 選択必修	授業形態	講義

■授業概要

地域の子育て支援についての基本的な知識を習得し、保育者として求められる「子育て」「親育ち」「親子関係」「子育て環境」それぞれの支援のための技術について理解する。本授業では、子育て支援の現状をより深く理解できるように、子育て支援の行政担当者、保育園、幼稚園、認定子ども園、児童館、保健機関、子育て支援センター、育児サークルなど現場の実践者から実践事例を伺い、子育て支援の現状と支援のための具体的方法を学ぶ。あわせて体験的な学習として子育て支援の実践現場の見学を行うことで、「子育て支援論」などで学習した子育て支援の理論と実践を体系的総括的に捉えていくことをねらいとする。

■授業の到達目標

本授業は、はじめに子育て支援とフィールドワークについて理解する。次に、その際に生じた疑問や課題を解決するために、子育て支援実践者と対話することに加え、フィールドワークとして保育所における子育て支援を体験し能動的に学ぶ。最後に、理解した事柄を発表し、「課題」に取り組む。これら対話、問題発見・解決といったアクティブラーニングの手法を用いた学びによって、以下の項目を理解することを目標とする。

1. 「子育て支援」とは何か、基本的事項を理解する。
2. 「フィールドワーク」とは何か、基本的事項を理解する。
3. 実践者からの聞き取り、フィールドワークなどにより、子育て支援の現状と具体的方法を理解する。
4. 1から3の項目をまとめ、学びを他者へ発表・伝える事を通して、子育て支援を体系的に理解する。

■授業の内容

- 第1回 本授業の概要とスケジュールを知る
- 第2回 子育て支援とは何かを学ぶ
- 第3回 フィールドワークとは何かを学ぶ
- 第4回 フィールドワークから、子育て支援を学ぶ意味を知る
- 第5回 フィールドワークの実際を知る
- 第6回 情報を意味ある知識へ変換する方法を学ぶ
- 第7回 「見る」と「書く」を理解する
- 第8回 実践者との対話による学び1：実践者からの知識と実践を学ぶ
- 第9回 実践者との対話による学び2：子育て支援に対する疑問を解消する
- 第10回 対話による学びを発表する
- 第11回 フィールドワーク1：子育て支援を体験する
- 第12回 フィールドワーク2：子育て支援を実践する
- 第13回 フィールドワークのプレゼンテーションとディスカッションを行う
- 第14回 課題：保育所における子育て支援のあり方を演習する
- 第15回 保育における子育て支援の実際

■事前・事後学習

事前学習：参考書を用いて、フィールドワーク・聞き取りなどの方法について調べ、まとめる。
事後学習：授業内容、聞き取り記録、フィールドワーク記録を整理してまとめる。

■評価方法

①聞き取り調査のまとめとプレゼンテーション…50% ②フィールドワークのまとめとプレゼンテーション…50%

教科書 教科書は使用せず毎回レジュメを配布する 「保育所保育指針解説書」	参考書等 ・麻生武『「見る」と「書く」との出会い』新曜社 ・柴山真琴『子どもエスノグラフィー入門』新曜社
--	--

履修学生に求めること

①本授業は保育所に行くことが目的ではない。十分な事前学習、活動中の自分の学びや体験を記録、事後においては他者に伝えることに重点が置かれる。このことを十分に理解して履修すること。②聞き取り・フィールドワークは「厚意により実現される」ことを十分に理解し、主体的な学習態度、必ず出席、5分前行動の意志をもつこと。③集中授業で行う事がある。出席日数に十分注意すること。④交通費、実費は自己負担である。⑤本授業は履修学生の能動的な学習が必要である。

科目名	障害児の発達と運動遊び		
科目英名	Developmental Motor Play for Children with Disabilities		
担当教員	守 巧	単位数	2
開講学期	秋学期	開講学年	★3・4 年（～2018 年度入学）
卒業・免許・資格との関係	卒業選択/保育士選択必修 総合専門領域で保育士 15 単位選択必修	授業形態	講義

■授業概要

障害児の発達において運動遊びは重要な役割を果たしている。本講義では、障害児の発達を理解し、その特性に応じた Adapted Physical Activity の考え方に基いた表現遊び、ごっこ遊び、ゴム遊び、ボール遊びといった子どものいろいろな運動遊びについて学ぶ。さらに障害のある子とない子が共に楽しむことのできる運動遊びの具体的プログラムを作成する。

■授業の到達目標

障害児の運動発達について理解する。こどもの発達段階、障害の特性、興味・関心などを考慮し、「Adapted Physical Activity」の考え方に基いて、表現遊び、ごっこ遊び、ボール遊びなど様々な運動遊びのプログラムや支援の方法を創意工夫することができる。障害の有るこどもと無いこどもが共に楽しむことのできるインクルーシブな運動遊びの配慮について主体的に考えることができる。

■授業の内容

- 第 1 回目 授業のガイダンス：発達に応じた運動遊びについて
- 第 2 回目 障害児の運動発達と支援(1)：新生児期～幼児期
- 第 3 回目 障害児の運動発達と支援(2)：幼児期～学童期
- 第 4 回目 運動面の不器用さの理解と支援
- 第 5 回目 障害児の姿勢と体づくり
- 第 6 回目 体づくりの運動遊びプログラムの実践方法
- 第 7 回目 障害児の動きづくり（姿勢制御を中心に）
- 第 8 回目 姿勢制御の運動遊びプログラムの実践方法
- 第 9 回目 障害児の動きづくり（移動運動を中心に）
- 第 10 回目 移動運動の運動遊びプログラムの実践方法
- 第 11 回目 障害児の動きづくり（操作運動を中心に）
- 第 12 回目 操作運動の運動遊びプログラムの実践方法
- 第 13 回目 障害児の仲間づくりと運動遊び
- 第 14 回目 仲間づくりの運動遊びプログラムの実践方法
- 第 15 回目 障害児の実践的理解

■事前・事後学習

事前学習：教科書の次回の該当箇所を一読する。

事後学習：授業内容を振り返り保育場面における活用方法を考えてまとめる。

■評価方法

参加態度に関する評価 40%

グループワークに関する評価 40%

レポート課題に関する評価 20%

教科書 『発達に気になる子の運動遊び 88』松原 豊編・著 学研 教育出版	参考書等
---	------

履修学生に求めること

講義以外に体験的な学習を行うので積極的な態度で参加して欲しい。始業 30 分後の入室は認めるが欠席扱いとなる。授業中の私語、飲食、携帯端末等の操作などをしないこと。

科目名	障害児保育演習（理念と援助）		
科目英名	Seminar on Care for Children with Special Needs (Principles and Support)		
担当教員	守 巧	単位数	1
開講学期	春学期	開講学年	2年（2015年度入学～）
卒業・免許・資格との関係	卒業選択/保育士必修	授業形態	演習

■授業概要

障害のある子どもをとりまく保育の理念に対する理解を深め、保育所、児童福祉施設等における障害児保育の変遷と現状および今後の課題について理解する。また、障害のある子ども一人ひとりの発達の課題に対して、特別な保育ニーズと支援を明らかにする観点から障害に対する理解を深める。

■授業の到達目標

障害児保育を支える理念、制度、歴史的変遷などについて、主体的に興味を持ち、理解することができる。様々な障害の特性がわかり、特性に応じた合理的配慮、具体的な援助の方法、保育における環境構成等について理解する。

■授業の内容

- 第1回目 オリエンテーション（障害について考える）
- 第2回目 障害の概念と定義
- 第3回目 障害児保育の歴史と理念
- 第4回目 障害児保育の仕組み①（障害の発見）
- 第5回目 障害児保育の仕組み②（保育の場）
- 第6回目 障害の理解と保育における発達の援助の基本
- 第7回目 視覚障害の理解と保育における発達の援助
- 第8回目 聴覚障害の理解と保育における発達の援助
- 第9回目 言語障害の理解と保育における発達の援助
- 第10回目 肢体不自由の理解と保育における発達の援助
- 第11回目 知的障害の理解と保育における発達の援助
- 第12回目 発達障害の理解と保育における発達の援助（ADHD-注意欠如多動症、LD-学習症）
- 第13回目 発達障害の理解と保育における発達の援助（ASD-自閉スペクトラム症）
- 第14回目 就学支援の実践的理解
- 第15回目 保護者との連携

■事前・事後学習

事前指導：シラバスを参考に教科書の次回授業該当部分を一読する。
事後指導：教科書の章末にある課題を行う。

■評価方法

参加態度に関する評価 40%
演習課題に関する評価 40%
レポート課題に関する評価 20%

教科書 『実践に生かす 障害児保育』前田泰弘編 萌文書林	参考書等 星山麻木編著「障害児保育ワークブック」萌文書林
---------------------------------	---------------------------------

履修学生に求めること
始業30分後の入室は認めるが欠席扱いとなる。授業中の私語、飲食、携帯端末等の操作などをしないこと。

科目名	障害児保育演習（現状と課題）		
科目英名	Seminar on Care for Children with Special Needs (Present Situation and Problems)		
担当教員	守 巧	単位数	1
開講学期	秋学期	開講学年	2年（2015年度入学～）
卒業・免許・資格との関係	卒業選択/保育士必修	授業形態	演習

■授業概要

障害のある子どもの個別の保育計画等を通して障害児保育実践に関する理解を深めると共に保育上の配慮点、環境設定の工夫などについて演習を通して体験的に理解する。また保護者支援、関係機関との連携、職員間の協働などについて事例を通して理解する。

■授業の到達目標

障害のある子どもの個別の支援計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりの中で育ち合う保育実践について理解を深める。障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状について興味を持ち、課題を主体的に考えることができる。

■授業の内容

- 第 1 回目 障害児とあそび①（遊びの発達と障害による困難）
- 第 2 回目 障害児とあそび②（遊びの具体的な支援）
- 第 3 回目 個別の支援計画（アセスメント）
- 第 4 回目 個別の支援計画（支援内容と方法）
- 第 5 回目 個別の支援計画作成演習①（エピソードから困難の背景を考える）
- 第 6 回目 個別の支援計画作成演習②（自閉スペクトラムの事例を中心に）
- 第 7 回目 個別の支援計画作成演習③（AD/HD の事例を中心に）
- 第 8 回目 個別の支援計画作成演習④（観察によるアセスメントから具体的支援の立案）
- 第 9 回目 保護者及び家族に対する理解と支援
- 第 10 回目 保育者のかかわりとカウンセリングマインド
- 第 11 回目 職員間の協働について
- 第 12 回目 障害がある子どもへの保育（ディスカッション・グループワーク）
- 第 13 回目 障害がある子どもへの保育（グループワーク）
- 第 14 回目 障害がある子どもへの保育（プレゼンテーション）
- 第 15 回目 障害がある子どもへの保育（プレゼンテーション）

■事前・事後学習

事前学習：シラバスを参考に教科書の次回授業該当部分を一読する。
 事後指導：教科書の章末にある課題を行う。

■評価方法

参加態度に関する評価 40%
 演習課題に関する評価 40%
 グループワークに関する評価 20%

教科書 『気になる子どもとともに育つ クラス運営・保育のポイント』守巧著 中央法規出版株式会社	参考書等 星山麻木編著「障害児保育ワークブック」萌文書林
--	---------------------------------

履修学生に求めること
 始業 30 分後の入室は認めるが欠席扱いとなる。授業中の私語、飲食、携帯端末等の操作などをしないこと。

科目名	家庭支援論		
科目英名	Theories of Family Support		
担当教員	守 巧	単位数	2
開講学期	秋学期	開講学年	2年（～2018年度入学）
卒業・免許・資格との関係	卒業選択/保育士必修	授業形態	講義

■授業概要

家庭や保護者が自ら問題を解決し、積極的に子育てを楽しむことができるよう、最善の支援を行うための知識と技術、態度を身につけるための授業である。教科書に加え、『厚生労働白書』等の資料や各種データ、映像資料などを用いて、家庭の意義や機能、家庭を取り巻く社会的な問題や環境、変化やニーズについて学ぶ。また、保育所等における具体的な事例を示し、相談への対応・社会資源につなげるワークなどを通じ、基礎的な技術を学ぶ。これらの学びを基に、特別な支援だけではなく、よりよい家庭支援のために、日常の保育はどのようにおこなうべきかという態度をもつ。

■授業の到達目標

保育士として子育て中の家庭に適切な相談と支援・活動が行える事を目指し、以下の項目を説明できるまで理解することで、知識と技術、態度を身につける。

1. 家庭の意義とその機能について説明ができる。
2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況や支援体制について説明ができる。
3. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について説明ができる。
4. 子どもと保護者の立場にたった支援や保育活動を行う態度を身につける。

■授業の内容

- 第1回目 家庭支援の意義と機能
- 第2回目 家族・家庭の内実を知る
- 第3回目 子育て家庭を取り巻く社会環境（現状と課題）
- 第4回目 子育てを通じた親・家庭の発達
- 第5回目 子育て家庭支援施策の経緯・現状・展望
- 第6回目 子育て家庭支援のための社会資源と地域ネットワーク
- 第7回目 家庭支援の具体的展開①（保護者との信頼関係の作り方）
- 第8回目 家庭支援の具体的展開②（保護者の養育力向上）
- 第9回目 家庭支援の具体的展開③（地域資源の活用と関係機関との連携・協力）
- 第10回目 家庭支援の具体的展開④（支援の計画・記録・評価）
- 第11回目 諸外国における子育てと家庭支援①（グループワーク）
- 第12回目 諸外国における子育てと家庭支援②（グループワークおよび発表）
- 第13回目 家庭支援の実践的理解①（保育所の特性を生かした家庭支援）
- 第14回目 家庭支援の実践的理解②（特別な配慮を必要とする保護者への支援）
- 第15回目 家庭支援の実践的理解③（問題・課題のある保護者への支援）

■事前・事後学習

事前学習：シラバスを参考にして次回授業のテキスト該当箇所を一読する

事後学習：配付資料を整理するとともに、教科書の該当部分と付き合わせて、理解を深める

■評価方法

グループワーク（参加態度）…50%

課題・レポート…50%

授業全ての回の出席が評価の前提となる。

教科書 『演習・保育と保護者への支援—保育相談支援—』小原敏郎・橋本好市・三浦主博編（株）みらい	参考書等 『保育所保育指針』 『保育所保育指針解説』
---	----------------------------------

履修学生に求めること

本科目を履修した直後に実施される保育実習では、保護者対応などを実践的に学ぶ機会があります。有意義な実習にするためにも、確実な学修が必要です。自宅学習として事前、事後学習を行いましょう。また、「子育て」「育児支援」「少子化対策」等に関するニュースを確認しておきましょう。

科目名	保育内容指導法演習(環境)		
科目英名	Teaching Methods for Child Care and Education(Environment)		
担当教員	富山 大士	単位数	1
開講学期	春学期	開講学年	3年(2016～2018年度入学)
卒業・免許・資格との関係	卒業選択/幼児必修/保育士必修	授業形態	演習

■授業概要

子どもを取り巻く環境とその発達の意義、子どもと環境とのかかわりに関する発達(思考、科学的概念、標識・文字等、情報・施設等との関わり)に関する専門的事項について理解する。それらの知識を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容について理解し、実際の保育場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

■授業の到達目標

領域「環境」の指導の基盤となる、子どもを取り巻く環境とその現代的課題、子どもにとって身近な環境との関わり等の専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。その上で、領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、子どもの発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、領域「環境」にかかわる具体的な指導場面を想定した保育を構想・指導する方法を身に付ける。

■授業の内容

- 第1回：オリエンテーション(子どもを取り巻く環境、領域「環境」のねらい・内容について)
- 第2回：現代社会の子どもを取り巻く環境とその課題(物的・人的・社会的・安全、ESD等)
- 第3回：乳幼児期の発達と環境との関わり(能動性、好奇心、探求心、有能感等)
- 第4回：乳幼児期の子どもの認知的発達(物理的、数量・図形とのかかわり)
- 第5回：乳幼児期の子どもと標識・文字等とのかかわり(生活や遊びの中の標識・文字探し等)
- 第6回：乳幼児期の子どもと自然とのかかわり①(大学周辺の自然環境探索)
- 第7回：乳幼児期の子どもと自然とのかかわり②(自然物を使用しての活動、自然マップ作成)
- 第8回：領域「環境」のねらい・内容の展開の実際(園内・園外活動を通して)
- 第9回：自然に親しみ、植物に触れる保育の実際①(【栽培活動】計画立案)
- 第10回：自然に親しみ、植物に触れる保育の実際②(【栽培活動】栽培の実践)
- 第11回：自然に親しみ、植物に触れる保育の実際③(【栽培活動】振り返り)
- 第12回：標識・文字等にかかわる保育の実際
- 第13回：数量・図形にかかわる保育の実際
- 第14回：生活に関係の深い情報や施設にかかわる保育の実際
- 第15回：日本の伝統的な行事や様々な文化等にかかわる保育、ESDにかかわる保育の実際

■事前・事後学習

事前学習：

- 「シラバスを参考にして次回授業のテキスト該当箇所を講読する」
- 「毎回の授業にて、次回の授業内容に際しての予習課題を課す」

事後学習：

- 「毎回授業後に振り返りを行う」
- 「授業時に提示された課題を次回授業までに行う」

■評価方法

課題 50% レポート等提出物 30% 発表 20%

教科書

必要に応じて、適宜連絡する。

参考書等

『幼稚園教育要領解説』
『保育所保育指針解説書』
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

履修学生に求めること

積極的な姿勢で授業に臨んでください。

科目名	保育内容総論		
科目英名	General theory on the childcare and Education		
担当教員	富山 大士	単位数	2
開講学期	秋学期	開講学年	1年(2019年度入学～)
卒業・免許・資格との関係	卒業選択/幼児必修/保育士必修	授業形態	演習

■授業概要

DVD等で幼児の遊ぶ姿を視聴し、遊びの中で幼児がどのような経験をしているか、5領域のねらい及び内容とどうつながっているかを確認することで、遊びを通しての総合的な指導とそこでの保育者の役割を学ぶ。また実際に保育記録を書き、そこでの幼児の姿から指導計画を立て保育を行うことの意味を理解する。

■授業の到達目標

幼稚園・幼保連携型認定こども園・保育所の教育・保育は、園生活全体を通して総合的に指導するという指導の考え方を理解し、具体的な幼児の姿と関連づけながら、環境を構成し実践するために必要な知識・技能を身に付けることを授業の到達目標とする。

■授業の内容

- 第1回 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園で展開される生活と保育内容
- 第2回 幼児の教育・保育の基本に基づく指導(1) 幼児の教育・保育における保育内容の考え方
- 第3回 幼児の教育・保育の基本に基づく指導(2) 遊びを通しての総合的な指導と保育者の役割
- 第4回 幼児の教育・保育の基本に基づく指導(3) 幼児理解に基づく評価
- 第5回 幼児の教育・保育の基本に基づく指導(4) 幼保小の連携・接続
- 第6回 発達を見通した指導計画の作成(1) 指導計画の意味
- 第7回 発達を見通した指導計画の作成(2) 指導計画の作成の手順と配慮点
- 第8回 発達を見通した指導計画の作成(3) 長期の指導計画と短期の指導計画、指導計画の評価
- 第9回 発達を見通した指導計画の作成(4) 行事の意味と園行事のあり方
- 第10回 指導計画の展開(1) DVDで幼児の姿を観察し、保育記録を書く
- 第11回 指導計画の展開(2) 幼児の実態に沿って具体的なねらい及び内容を考える
- 第12回 指導計画の展開(3) 教材を工夫する
- 第13回 指導計画の展開(4) 環境に関わって活動する幼児の姿と保育者の援助を予想する
- 第14回 指導計画の展開(5) 指導計画に基づく模擬保育の実践と評価
- 第15回 遊びの中に成り立つ学び、試験

■事前・事後学習

事前学習：シラバスを参考にして教科書の次回授業の該当箇所を一読する。
 事後学習：教科書の授業で学んだ箇所を読み返し、授業で出された課題を行う。

■評価方法

参加態度(30%) 課題(50%) 試験(20%)

教科書 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針(平成29年告示)	参考書等 指導計画の作成と保育の展開(幼稚園教育指導資料第1集)、指導と保育に生かす記録(幼稚園教育指導資料)、指導と評価に生かす記録(幼稚園教育指導資料第5集)
--	--

履修学生に求めること
 授業内でのグループワークや授業で提示される課題に積極的に取り組んでください。

科目名	指導計画と保育教材の研究		
科目英名	Studies of Teaching Plans and Materials for Child Care Education		
担当教員	松浦 美奈	単位数	2
開講学期	春学期	開講学年	3年（～2018年度入学）
卒業・免許・資格との関係	卒業選択/幼児必修/保育士 選択必修 総合専門領域で保育士15 単位選択必修	授業形態	講義
<p>■授業概要 「教育課程・保育課程論」における学習をふまえ、保育現場において必要な指導計画の作成と保育教材を学ぶ授業である。教育課程・保育計画と指導計画の関連を理解するとともに、長期の指導計画作成や短期の指導計画作成のありかたを学ぶ。さまざまな週案・日案・時案の検討を通して、子どもの発達、行動を予想したねらいと内容、環境構成と援助のあり方、保育材の活用方法などを研究する。 特に、教材は幼児の興味や関心を引き出す重要な手段である。教材の選択・教材の活用は保育の基本となる。教材としての遊具・絵本・壁面構成等の研究をする。 また、延長保育などによる長時間保育の在り方など、幼児教育の現在抱えている問題を探り、保育者としての力量も養いたい。特に、日・時案の立案を通して指導計画について学び、理論だけでなく実践に役立てる力を育成することをねらいとする。</p> <p>■授業の到達目標 ①教材研究を通して、様々な廃材・素材・道具等の特性を理解し、子どもの発達段階や興味に合わせた活用の仕方を考える。 ②子どもの発達段階や興味に応じ、保育方法を多角的に考えることができる。 ③保育教材を用いた指導計画を立案することができる。</p> <p>■授業の内容 第1回目 オリエンテーション 第2回目 指導計画の意義 第3回目 教材研究① 素材について 第4回目 教材研究② 道具について 第5回目 教材研究③ ディスカッション 第6回目 指導計画の立案① ねらい・内容 第7回目 指導計画の立案② 環境構成 第8回目 子どもの発達に応じた方法や活動を考える① 3歳未満児 第9回目 子どもの発達に応じた方法や活動を考える② 制作活動 第10回目 子どもの発達に応じた方法や活動を考える③ 運動遊び 第11回目 指導計画の立案③ 部分実習のねらい・内容 第12回目 指導計画の立案④ 部分実習の環境構成 第13回目 相互発表及び評価① グループ発表 第14回目 相互発表及び評価② ディスカッション 第15回目 まとめ</p> <p>■事前・事後学習 事前学習：教材研究の準備や様々な活動を調べる。 事後学習：立案した指導案の修正を行う。</p> <p>■評価方法 参加態度：50% 課題：50%</p>			
教科書 特になし	参考書等 『幼稚園教育要領解説』 『保育所保育指針解説』		
履修学生に求めること 意欲的に、積極的に取り組むことを期待します。			

科目名	保育原理(意義と本質)		
科目英名	Principles of Early Childhood Care and Education(Singificance and Essence)		
担当教員	松浦 美奈	単位数	2
開講学期	春学期	開講学年	1年
卒業・免許・資格との関係	卒業必修/保育士必修	授業形態	講義

■授業概要

本科目は、保育の基礎・基本となる考え方、基礎知識を学ぶ科目である。「保育原理(意義と本質)」においては、保育の概念、現代社会における保育の意義と保育の基本、保育の場、保育の目標・方法・内容、保育者として子どもを理解すること、自らの保育を省察することの意義について理解する。

■授業の到達目標

- 1 保育の概念、意義について理解し説明できる。
- 2 保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園の保育の基本、方法、内容について理解し説明できる。
- 3 保育者の子ども理解の視点について理解し、説明できる。

■授業の内容

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 「保育」の目的
- 第3回目 少子化社会と子ども・保育の現状、「子ども・子育て支援新制度」下の保育
- 第4回目 子どもの最善の利益を考慮した保育とは
- 第5回目 子どもとかわる上で保育者が大切にすること①：子どもを人として尊重することについて
- 第6回目 子どもとかわる上で保育者が大切にすること②：保育者としてあるべき姿について
- 第7回目 幼稚園の実際と保育の目的・目標・方法・内容
- 第8回目 保育所の実際と保育の目的・目標・方法・内容
- 第9回目 幼保連携型認定こども園の実際と保育の目的・目標・方法・内容
- 第10回目 子ども主体の生活、環境を通して行う保育の意義と実際
- 第11回目 西洋の保育の歴史①：ルソー、ペスタロッチ、フレーベル等
- 第12回目 西洋の保育の歴史②：マクミラン姉妹、デューイ、モンテッソーリ等
- 第13回目 日本の保育の歴史①：江戸時代～大正期
- 第14回目 日本の保育の歴史②：昭和期～現在
- 第15回目 試験と学生自らの学びの振り返り

■事前・事後学習

事前学習：シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。
事後学習：授業の教科書該当箇所を読み、ポイントをまとめる。

■評価方法

参加態度 20%、課題 20%、学期末試験 60% を総合的に評価する。

教科書 『保育所保育指針解説』, 『幼稚園教育要領解説』, 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』, 『改訂版 保育原理の基礎と演習』	参考書等 適宜、授業で紹介する。
---	---------------------

履修学生に求めること 授業後の振り返りや、提示される課題にしっかり取り組んでください。
--

科目名	保育原理(保育ニーズの多様化)		
科目英名	Principles of Early Childhood Care and Education(Diversification of Needs)		
担当教員	松浦 美奈	単位数	2
開講学期	秋学期	開講学年	1年
卒業・免許・資格との関係	卒業選択/保育士必修	授業形態	講義

■授業概要

本科目は、保育の基礎・基本となる考え方、基礎知識を学ぶ科目である。「保育原理(保育ニーズの多様化)」においては、保育ニーズが多様化している現在の日本の保育の現状、保育制度、保育の基本についての理解を深めるために、保育思想、保育施設・制度の変遷を辿り、これからの日本の保育の課題を考える。

■授業の到達目標

- 1 保育所保育指針の理解を深める。
- 2 子どもの発達に対する保育の内容や保育方法について理解を深める。
- 3 自ら保育を計画し実践することで、保育の楽しさや難しさ、保育計画の大切さについて学ぶ。

■授業の内容

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 保育所保育指針における保育の基本
- 第3回目 保育所保育指針の理解①：乳児の子どもの姿と保育の内容について
- 第4回目 保育所保育指針の理解②：1歳以上3歳未満児の子どもの姿と保育の内容について
- 第5回目 保育所保育指針の理解③：3歳以上児の子どもの姿と保育の内容について
- 第6回目 保育の内容と養護・3つの姿と5領域
- 第7回目 保育の方法①：環境を通した保育について
- 第8回目 保育の方法②：保育の過程について
- 第9回目 保育の方法③：保育の計画について
- 第10回目 保育実践①：手作教材・実践計画の作成と実践
- 第11回目 保育実践②：振り返り
- 第12回目 保育の専門性と質の向上①：外部講師による講話
- 第13回目 保育の専門性と質の向上②：研修等による保育者の自己研鑽について
- 第14回目 保育の場における子育て支援
- 第15回目 試験と学生自らの学びの振り返り

■事前・事後学習

事前学習：シラバスを参考にして次回授業の教科書該当箇所を一読する。
 事後学習：授業の教科書該当箇所を読み、ポイントをまとめる。

■評価方法

授業への参加態度、課題への取り組み 50%
 学期末試験 50%

教科書 『保育所保育指針解説』，『幼稚園教育要領解説』， 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』， 『改訂版 保育原理の基礎と演習』	参考書等 授業時に紹介する。
--	-------------------

履修学生に求めること 授業時の振り返りや提示される課題にしっかり取り組んでください。 また、授業に積極的に参加し、学ぶ姿勢が大切です。

科目名	在宅保育論		
科目英名	Home childcare theory		
担当教員	松浦 美奈	単位数	2
開講学期	秋学期	開講学年	4年
卒業・免許・資格との関係	卒業選択 認定ベビーシッター資格	授業形態	講義
<p>■授業概要 本科目では、保護者の自宅等に保育者が出向いて保育にあたる在宅保育について、その概論や現状を学び、保育所保育との違いやベビーシッターの役割、基本姿勢や保育技術について実践的に学ぶ。</p> <p>■授業の到達目標 ①在宅保育の意義を理解し、保育所保育との違いを理解する。 ②乳児の発達をふまえ、発達に即した生活や遊びについて考えることができる。</p> <p>■授業の内容 第1回目 居宅訪問型保育の概要 第2回目 乳児の発達と心理と遊び 第3回目 乳児の食事と栄養 第4回目 小児保健 第5回目 居宅訪問型保育の保育内容 第6回目 居宅訪問型保育における環境整備 第7回目 居宅訪問型保育の運営 第8回目 安全の保育とリスクマネジメント 第9回目 保育者の職業倫理と配慮事項 第10回目 保護者対応 第11回目 子ども虐待 第12回目 特別な配慮を要する子どもへの対応 第13回目 保育技術 第14回目 さまざまな家庭訪問保育 第15回目 試験と総括</p> <p>■事前・事後学習 事前学習：シラバスを参考にして次回授業のテキスト該当箇所を一読し、分からない用語を調べておく。 事後学習：授業で興味をもった内容について、それに関連する文献を読む。</p> <p>■評価方法 試験 50% 授業中、授業後の課題 30% 参加態度 20%</p>			
教科書 「家庭訪問保育の理論と実際 第2版－居宅訪問型保育基礎研修テキスト・一般型家庭訪問保育学習テキスト」中央法規出版株式会社	参考書等 「家庭的保育の基本と実践」 家庭的保育研究会		
<p>履修学生に求めること 積極的に自ら学ぼうとする姿勢を期待します。 指定された教科書を購入することが履修条件となります。</p>			

科目名	教職・保育職概論		
科目英名	Introduction to Teaching and Child-Care Specialist		
担当教員	須永 美紀	単位数	2
開講学期	春学期	開講学年	2年（～2018年度入学）
卒業・免許・資格との関係	卒業必修/幼免必修/保育士必修	授業形態	講義

■授業概要

保育者として必要な、知識・技能、倫理観について学び、保育実践における専門性について学ぶ。さらに、子ども主体の保育を展開するために求められる専門性について、考察を深めたい。また、保育者同士の協働のありようや、保護者や地域社会、専門機関などとの連携について学ぶ。

■授業の到達目標

- ①保育者の仕事内容、役割、制度的な位置づけについて理解する。
- ②保育者の倫理や研修の必要性について理解する。
- ③保育者に求められていることを理解し、専門性について考察することができる。

■授業の内容

- 第1回目 「保育者になる」ということ
- 第2回目 幼稚園と保育所（園）－日本の保育の歩みの中で－
- 第3回目 幼稚園教諭の仕事内容（職務・身分保障含む）とその役割
- 第4回目 保育士の仕事内容（職務・身分保障含む）とその役割
- 第5回目 保育者の専門性とは何か ①「子ども主体」について
- 第6回目 保育者の専門性とは何か ②「子ども理解」について
- 第7回目 保育者の専門性とは何か ③「子育て支援」について
- 第8回目 保育の倫理
- 第9回目 保育者の権利と研修
- 第10回目 保育者の成長
- 第11回目 保育者同士の協働と外部機関との連携
- 第12回目 保育の現状と課題
- 第13回目 日本の保育・世界の保育
- 第14回目 「保育者になるものとしての自分」を考える
- 第15回目 まとめ

■事前・事後学習

事前学習：各回、配付資料を次回授業までに読んでおく
 事後学習：授業に関連する雑誌や文献を読む

■評価方法

試験 60%
 授業時の課題 20%
 参加態度 20%
 により総合的に評価する。

教科書 「幼稚園教育要領解説」 「保育所保育指針」	参考書等 授業内で指示する
---------------------------------	------------------

履修学生に求めること

積極的に授業に参加することを期待する。保育者としての資質を育てるための自己課題を発見し、日々の生活を考えながら参加して欲しい。

科目名	乳児保育演習（意義と現状）		
科目英名	Infant Care and Education(Significance and the State)		
担当教員	須永 美紀	単位数	1
開講学期	春学期	開講学年	2年（～2018年度入学）
卒業・免許・資格との関係	卒業選択/保育士必修	授業形態	演習

■授業概要

乳児・乳児保育の概念について学び、その意義を考える。
 各回のテーマに対して自分の考えをまとめ、質疑応答を通して具体的に検討するなかで、乳児保育を担当する保育者としての役割について考える。さらに、保育の様々な形態（異年齢保育、障害児保育など）や連携のあり方（職員の協力体制、家庭・他機関・地域との協力体制等）について検討し、「保育内容を充実させるために何ができるか」を考える。このような取り組みを通して、保育者としての責任を実感しその自覚を持つ。
 授業形態は、演習課題についてのレポート作成、発表（個人発表・質疑応答・検討）を中心とし、必要時、グループ討議や模擬保育等を行う。

■授業の到達目標

- ① 乳児期・幼児期前期の保育の意義を理解し、乳児保育における保育者の役割を説明することができる。
- ② 基本的なケアの技術を学び、手順に従って行うことができる。
- ③ 現代社会における乳児保育の課題を理解し、望まれる保育のあり方について考えることができる。
- ④ 具体的な事例の検討を通して、他者の見方や考え方を尊重しながら協働することができる。

■授業の内容

- 第1回目 乳児保育とは
- 第2回目 乳児の世界を知ろう
- 第3回目 乳児保育の変遷と今日的意義
- 第4回目 保育者の保育観・発達観と保育
- 第5回目 「養護」とは何か
- 第6回目 0・1・2歳児の生活する場所—家庭・保育所・乳児院など—
- 第7回目 ケア技術の基本
- 第8回目 0・1・2歳児の生活（1）—健康と安全—
- 第9回目 グループワーク～散歩マップの作成～
- 第10回目 0・1・2歳児の生活（2）—食事と睡眠—
- 第11回目 食事介助体験～「食べる」を考える
- 第12回目 0・1・2歳児の生活（3）—保育環境と遊び—
- 第13回目 プレゼンテーション～手作りおもちゃの製作～
- 第14回目 0・1・2歳児にふさわしい生活とは何か—保育形態と保育内容—
- 第15回目 まとめ

■事前・事後学習

事前学習：シラバスを参考にして、テキストの該当箇所、指定された資料等を読んで授業に臨むこと。
 事後学習：授業に関連した文献を探して読む。授業で指示した課題を行う。

■評価方法

試験：50%
 授業内発表・課題レポート：20%
 参加態度：20%
 自己評価シート：10%

教科書 「やさしい乳児保育」守随香 池田りな 石川正子編著 青踏社 2018	参考書等 「保育所保育指針」他 授業の中で紹介する
--	------------------------------

履修学生に求めること

日常生活の中で、乳児期・幼児期前期の子どもの姿に目をとめ、よく見る・よく考えることを意識してほしい。
 日ごろから、子どものこと、子育てのことに関する情報収集をし、授業に生かすようにしてほしい。

科目名	乳児保育演習（発達と課題）		
科目英名	Infant Care and Education(Development and Problems)		
担当教員	須永 美紀	単位数	1
開講学期	秋学期	開講学年	2年（～2018年度入学）
卒業・免許・資格との関係	卒業選択/保育士必修	授業形態	演習
<p>■授業概要 ・3歳未満児の発育、発達と保育内容について学び、生活と遊びの環境において保育士の援助のあり方を具体的に検討する。 ・保育課程に基づき、保育の計画、記録、評価の方法について学び、実践を通し理解を深める。 ・保護者や地域の関連機関との連携について学び、チームの一員として協力して実践できるよう理解を深める。</p> <p>■授業の到達目標 ① 胎児期～3歳未満児の発達を理解する。 ② 乳児の実態に即した環境構成や保育者の援助のポイントを具体的に述べることができる。 ③ 保護者や他職種の職員、関連機関との連携の中で、保育士の専門性を理解する。 ④ 現代社会における乳児の生活、乳児の保育に課題意識を持つ。</p> <p>■授業の内容 第1回目 妊娠～出産一胎内での子どもの成長ー 第2回目 子どもが生まれることで何が変わるのかー「乳児のいる生活」を理解するー 第3回目 グループディスカッションー「親になる」ことー 第4回目 発表とまとめ 第5回目 0歳児の発達と保育内容 第6回目 グループワーク～遊び体験からの計画（0歳児）～ 第7回目 1歳児の発達と保育内容 第8回目 グループワーク～遊び体験からの計画（1歳児）～ 第9回目 2歳児の発達と保育内容 第10回目 グループワーク～遊び体験からの計画（2歳児）～ 第11回目 保育の記録と計画 第12回目 保護者との信頼関係と支援 第13回目 乳児保育における連携の実際 第14回目 乳児保育の現状と課題 第15回目 まとめ</p> <p>■事前・事後学習 事前学習：シラバスを参考にして、テキストの該当箇所、指定された資料等を読んで授業に臨むこと。 事後学習：授業に関連した文献を探して読む。授業で指示した課題を行う。</p> <p>■評価方法 試験：50% 授業内発表・課題レポート：20% 参加態度：20% 自己評価シート：10%</p>			
教科書 「やさしい乳児保育」守随香 池田りな 石川正子編著 青踏社 2018	参考書等 ・「保育所保育指針」 ・必要に応じて資料等を配布する		
履修学生に求めること 日常生活の中で、乳児期・幼児期前期の子どもの姿に目をとめ、よく見る・よく考えることを意識してほしい。 日ごろから、子どものこと、子育てのことに関する情報収集をし、授業に生かすようにしてほしい。			